

平成 23 年度

事業所名：グループホーム 平泉

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972600262		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム平泉		
所在地	岩手県西磐井郡平泉町平泉字日照田133-2		
自己評価作成日	平成 23年 9月 7日	評価結果市町村受理日	平成 23年 11月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372600262&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 23年 9月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭にいる時と同じように毎日入浴できるよう配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、今年6月に世界遺産に登録された中尊寺周辺に立地し、開設後7年を迎え、法人系列のホームの中で最も早く整備された事業所である。これまでの経験の積み重ねが活かされ、職員が日々考え思っていることをざっくばらんに話し合える環境にあり、利用者から「今日も一日いがったなあ・・・」と言ってもらえるよう心がけている。毎月写真入の手紙が家族に届けられ、ホームでの生活の様子が分かりやすいと喜ばれている。なお、事業所前の県道31号線は自動車が多く通るが、職員の細心の注意のもとで安心安全の確保に特に配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 23 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 平泉

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を共有スペースの壁に掲げ、常に念頭においている。	職員が日々考え思っていることをざっくばらんに話し合える環境づくりに努め、利用者から「今日も一日いがったなあ・・・」と言ってもらえるよう心がけ、また、職員間でも感じるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域住民の代表者に出席していただき、情報交換をしている。地域との交流は実践できていない。	例年は、近隣のお年寄りとお茶飲み会や、いものこ会などの交流をしていたが、今年度は大震災のため動きが鈍くなっている。なお、地域の一員としての地域自治との交流が不活発で、課題と認識している。	事業所自身も近隣地域との交流の在り方が少し弱いと考えており、今後の課題としているが、事業所の持っている素晴らしい資源を活かした交流も大切と考えるので、今後を期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に向けての勉強会等は実践できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度開催し、地域住民の代表者、行政と意見交換しサービスの向上に努めているが、地域との繋がりが薄い。	地域の情報や空きベット情報を得ているほか、今年は、猛暑日が続いたことから暑さ対策や、震災後の地域住民との交流の大切さについて民生委員や町職員から頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実践できていない。	町との情報の交換は、運営推進会議や介護認定変更時等が中心で、日頃の交流が少ないため今後の課題としている。ホームは地域包括支援センターとの情報交流を期待している。	地域密着型サービスは、市町村との連携、情報交換等が非常に大切であるので、広報誌の作成時や制度改正時の機会を捉えた話し合いに期待する。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。日中は施錠せず、安全のためにセンサーを使用している。安全面のために夜間のみ施錠している。見回りに重点をおいている。	帰宅願望の強い方もいるが慌てることなく職員が利用者の自由な行動を見守っている。時には一緒に散歩しながら利用者の思い等を聞くようにしている。なお、かかりつけ医と相談し安定確保のため薬の利用もあるとしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の無いように注意し、防止に努めている。勉強会は実践できていない。			

[評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施しているが、活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族からの要望、不安な点、尋ねられた内容について納得するよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも相談できる場を提供し、その内容を運営や日常のケアに反映している。	家族の訪問時を利用し運営上の意見、要望のほか、家族が気になる事柄(例えば便秘の訴えや、タバコを止めさせたい等)を申し送りノートに記録し情報共有するとともに運営に反映したり、介護計画などに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は管理者を通じ運営者に会議の際、報告・相談している。また、その内容によっては改善できる点は改善に努めている。	スタッフ会議等を通じて、休日のとり方、車更新など、事業所運営に必要な提案を頂き改善に努めている。なお、予算の必要なものは法人と相談しながら提案の実現を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通し、代表者へと職員の状況を報告している。必要な環境設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会を開催しているが、身についていない。法人内での学ぶ場を提供できていない。外部の研修に出席できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・地区のグループホーム協会の定例会等の同業者の交流の場があるが、参加できていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメント時、利用者と家族の話をよく聞くようにしている。また、事業所を見学していただいたり、家庭や利用中のサービス事業所を訪問し、情報収集に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント、訪問調査時によく話を聞き、不安が軽減できるよう配慮している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を知るように努めている。また、利用中のサービスがある場合はそこからも情報をいただくようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の立場になりケアするよう努めている。日常のコミュニケーションの通じ、関係作りに努めている。しかし、職員の立場で介護する場面が増えており、改善が必要である。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報報告をこまめに行っている。また、面会や通院時、状況相談し利用者が安心してサービスを受けられるよう配慮している。毎月家族へ手紙を出し、1ヶ月の状況報告をしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会、外出、外泊できるようになっている。家族の希望があれば、家族が事業所に宿泊できるようになっている。	車椅子利用者(4人)や、遠方の入居者がおり対応の難しい面もあるが、介護タクシーを利用した馴染みの医療機関への通院支援をしたり、馴染みの理容所が出前してくれる。また、家族による外食を楽しんだりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	より良い関係を築けるよう、食事の席を工夫している。また、居室で一人で居る事の無いよう、声掛けし他利用者や職員と一緒に過ごせるよう配慮している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話を通じて希望、意向を把握できるよう努めている。	日常におけるお話や、会話などで今まで聞いたことのなかったお話や会話があった時は、必ず申し送りノートに記録し、情報を共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、訪問調査時に日々のケアについて本人や家族から話を聞き、同じような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りノートを通し一人ひとりの状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点は会議等で職員間で話し合いケアに生かしている。また、本人や家族の要望を	毎月、全職員によるスタッフ・ケア会議を開催し、日常の申し送り事項や家族の意向、職員の日常の観察結果などを話し合い、時には多くの時間をかけて話し合い、本人のための介護計画づくりに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録をとり、プラン作成や情報の共有に努めている。利用者の状況に合わせた記録方法をとるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化、本人や家族の要望に応じサービスの提供、変更を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力・指導の下、定期的に避難訓練、防災訓練を実施している。訓練には利用者也参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人のかかりつけ医の受診を基本としている。	医療受診は本人・家族の希望するかかりつけ医で家族の同行にて受診している。緊急などの時は職員対応し結果を家族に報告している。なお、家族同行の時は、ホームでの経過記録と情報を家族に渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が事業所に配置していない。基本的には家族対応で通院しており、通院時に職員が家族に状況報告・通院時に必要な記録を渡し、医師や看護師に伝えていただくよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に家族や医療機関と事業所間で情報交換に努め、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際、家族と話し合うと共に、医療機関からケアに対するアドバイス等をいただき対応している。終末期ケアは実施していない。	重度化の対応は、家族と話し合いをしながら、医療機関の指導を踏まえたケア対応とすることで家族の理解を得ているほか、終末期の対応については、困難である旨説明し理解を得ているとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回救命救急訓練を実施している。昨年度、予定していたが震災の影響で実施できず。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練防災訓練を実施し、消防署から指導をいただいている。地域との協力体制はできていない。	防災の安心安全からスプリンクラーを5月に設置したが、その点検を兼ねて全職員で防災訓練を実施した。なお、地域の協力を得ることについては、今後の課題としている。	地域との付き合いや地域の防災支援は、非常に重要であり、事業所自身も大きな課題と認識しており、改めて役割と機能について運営推進会議を利用し協力を求めることに期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、不快な思いをさせないよう声掛けを行うよう配慮している。今年度、利用者の家族を不快にさせた苦情1件受付、謝罪している。	この度の自己評価で最も重視した課題はこの項目であるとしている。何気ないしぐさ、言葉等が利用者・家族の尊厳や誇り、プライバシーを損ねることのないよう注意しながら取り組むとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えに耳を傾け、日常会話等の中から要望を聞きだすよう努めている。本人が自己決定できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合せ、生活できるよう努めている。職員のペースになる時が時々見られるので、改善が必要である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の要望に添って支援している。移動美容院や地域の床屋さんの訪問を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みをメニューに取り入れている。嫌いな食品や接触禁止の食品に対して、代替食にて対応している。準備・後片付けを手伝っていただいている。	新聞の折り込みチラシ等を見ながら、「食べたい名前を挙げて希望をとったり」、「さんまが美味しそう」、「おにぎりを食べたい」、「やわらかいご飯」など、と話し合い、近くのスーパーで買い物をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に合わせて、量を調整している。食事、水分の摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、歯磨き、義歯の手入れの声掛け・介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後に排泄の声掛け・誘導を行っている。介護記録をもとに個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導、声掛け・介助を行っている。	個々に応じた声かけをこまめに行い、トイレ誘導をした結果、失禁する方がなくなったとしている。利用するパンツもその人その人に合わせ心地よく過ごせるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、水分補給、運動に努めている。食事のメニューに乳製品を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制にしている。本人のペースで入浴できるよう可能な限り時間帯を調整している。	一日3～4人であるが毎日入浴できる。中には入浴を拒否する利用者もいる。風呂好きの人は自分のペースでゆったり利用し、歌を歌ったりリラックスしている。なお、職員と自分の思いを語るなど重要な情報を得る機会としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースで居眠りをしている利用者がいた際、居室で休むよう声掛けをしている。また、寝過ぎないよう声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が変更となった際、薬の説明書の内容を全職員が把握するよう申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味を楽しめるよう支援している。掃除、食器拭き、調理等を職員と一緒にできるようにしているが、利用者のレベル低下により職員が全面的に行うことが多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のレベル低下により外出する機会が少なくなっているが、行事の中にドライブや外食を取り入れ、外出できるよう支援している。	四季に応じ一関市や胆沢ダム等の桜やツツジを見学に出かけているほか、家族がドライブに誘ってくれる。ホームの駐車場にテーブルを出しお茶のみをしたり、日向ぼっこをゆったり味わえるよう支援している。	なお、事業所は利用者のレベル低下等を踏まえた中で外出の機会を様々な工夫しながら取り組んでいるが、ご家族の散歩等の戸外支援を期待しているので、運営推進会議等を通じて意見交換するのをも一考である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと、多くない金額のお金を所持できるようにしている。現在はお金を所持している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望がある時に電話をかけられるようにしているが、現在は利用が無い。。自分から手紙を書く方はいないが、訴え時に代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、廊下にソファや椅子を置いてくつろげるようにしている。	一般民家のこじんまりした雰囲気、感覚が醸し出され、空間全体の装飾もシンプルである。廊下にはソファや椅子が置かれ、利用者がしばしの間皆から離れ体を休める場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士と一緒に過ごせるよう、共有スペースの席を工夫している。また、一人で過ごしたい利用者がいた際は、ある程度の距離をおきながら見守りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は本人が自宅で使い慣れた物を持ち込んでいただいている。本人の状況に合わせ、介護用ベッドを導入したり、床に畳を敷いて布団で休んでいただいている。	馴染みの物を持ってきており、自分にあった睡眠を得るため畳にしたり、ベッドを持ち込んだりし居心地よく過ごせるようにしている。なお、昨年の敬老会を機会に全室に時計を設置し「時」を大事にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、やりたいことはやっていただいている。職員が見守りを行いながら、混乱や失敗を防ぎながら対応しているが、建物がバリアフリーになっている。		